

平成17年度学術研修セミナー(第1・第2回)のご報告

学術研修委員会委員長 羽田 勝

平成17年度の学術研修セミナーは、平成18年4月から施行される介護保険法の一部改正による「予防重視型システムへの転換」をにらんで、一足早く新予防給付についての見識を広めていただくために、2回シリーズで開催されました。

1回目のセミナー

平成17年8月21日にふれあい健康館で講師に大塚智子会長と鷲 春夫理事をお招きして会場一杯の約200名の参加の下に開催されました。大塚会長には「新予防給付とは？その背景とせまられる対応」といったタイトルで新予防給付について8月時点で判明している内容とケアマネとしていかに対応すべきかを詳しく解説して頂きました。鷲理事には、「マシンを使わず身近なもので実践できる!!筋力向上トレーニングの効果的な進め方」といったタイトルで講演と特殊なマシンを使わなくても家庭で簡単にできるトレーニング方法を教えて頂きました。この協会ニュースにも運営委員会の高橋委員の記事が掲載されていますのでご覧下さいと思います。また、同様のセミナーに参加された会員も多いと思いますので講演の詳細については割愛させていただきます。

2回目のセミナー

平成18年1月29日に徳島県歯科医師会館において岡山県から中本豊子氏、高知県から坂本まゆみ氏を講師にお迎えし、約140名の参加を得て開催されました。中本氏については徳島県栄養士会、坂本氏については徳島県歯科医師会並びに歯科衛生士会が招聘の窓口になって下さいました。ご協力に感謝申し上げます。



中本氏は、全国的にもまだ数少ない管理栄養士として独立した事業所(オフィス楓)を構え、そこを基盤として精力的に活動されています。講演は、「在宅高齢者の栄養を考える」といったタイトルでおこなわれ、豊富な経験に基づいた内容は高齢者における栄養摂取の重要性について参加者に大きな感銘を与えました。

坂本氏は、リハビリテーションで有名な高知県の近森リハビリテーション病院で歯科衛生士として入院患者の口腔ケアや摂食・嚥下指導に当たられています。講演は、「口腔ケアの実践について」といったタイトルでおこなわれ、参加者相互の簡単な実技演習についてもご指導頂きました。なお、実技演習に使用した歯ブラシは徳島県歯科医師会からご提供頂きました。厚く御礼申し上げます。



坂本氏は、リハビリテーションで有名な高知県の近森リハビリテーション病院で歯科衛生士として入院患者の口腔ケアや摂食・嚥下指導に当たられています。講演は、「口腔ケアの実践について」といったタイトルでおこなわれ、参加者相互の簡単な実技演習についてもご指導頂きました。なお、実技演習に使用した歯ブラシは徳島県歯科医師会からご提供頂きました。厚く御礼申し上げます。



第5回 県民公開講座に参加して

運営委員 高橋 忠雄

介護サービスを利用しても、軽度利用者の要介護状態が改善しないということで介護保険の見直しの根本として考えられたのが介護予防です。今までは要支援の人も介護給付と同じようなサービスしかできていませんでした。これからは予防重視型への転換を考えています。介護予防では「できないことをサポートするサービス」から「できるようにするための支援」を市町村が主体となって、自宅で自立した生活をおくり続けることを目標に展開されています。当初は 転倒予防、筋力増強、認知症予防、口腔ケア、低栄養対策、フットケア、がメニューとして挙げられていましたが、科学的な裏付けが不充分ということで、認知症予防やフットケアがふるい落とされ、第一弾として「運動機能の向上」(筋力向上、転倒予防)「栄養改善」「口腔機能(食べる機能)の向上」という3つの柱が実施されることになりました。



今回の県民公開講座は「新しい予防給付を考える」というタイトルで11月26日(土)プリンスホテルにて開催されました。一般も含めて500名の参加でした。最初の講演では、うぐいすりハビリ研究所

所長 鷲春夫先生による「トレーニングリハビリの実際～マシンを使わず効果が出せる(らくらく介護予防)トレーニング～」と題して介護予防の3つの柱の一つ「運動機能向上」(筋力向上、転倒予防)についてご講演いただきました。寝たきりを予防する為の基礎疾患についての理解や、高齢者に適した運動・リスク管理、具体的なスケジュール内容の説明を受けた後、実際に参加者全員でストレッチを行い、運動によって機能が向上する事を身をもって体験できた楽しい講演となりました。

次に、神奈川県立保健福祉大学 教授 杉山みち子先生による、「高齢者の低栄養をなくそう」と題して、介護予防の3つの柱のもう一つ「栄養改善」について、介護保険施設や在宅における栄養ケア



マネジメントの実施から、栄養ケアの実施、モニタリング、再スクリーニングにいたるまでの要点や多職種との連携の必要性、高齢者にとっての「食べること」の意義の考え方など、具体的な取り組みをお話いただきました。

変わっていく制度を前にして、この公開講座は私たちの考え方の方向付けをする上で具体的な内容だったと感じました。